

まちの
スケッチブック



自由民主党・新緑会泉佐野市議員団

千代松 大耕

ちよまつ ひろやす

10年間で400億円／3年間で230億円／19年間で536億円
小学校統廃合問題／「まちづくり」は「ひとづくり」から

市政報告
vol.69

「まちづくり」は
「ひとづくり」から

「千代松大耕のニュースレター」を発行しています！

読者の方々からは、「泉佐野市の状況がよくわかる。」
といった好評をいただいております。

千代松大耕メールマガジン

市政や議会の情報をいち早く市民のみなさまに、お伝えするためにメールマガジンを発行しております。

メルマガの登録は、千代松大耕のホームページ、または下記のアドレスからできます。

ホームページアドレス

<http://www3.ocn.ne.jp/~chiyo51/>

登録ページアドレス

<http://www.mag2.com/m/0000156662.html>

ひとりでも多くの方に登録していただければ幸いです。
*検索サイトで「千代松大耕」と検索していただければ、私のホームページにヒットします。

携帯用メールマガジンを開設しています！



携帯版「千代松大耕のニュースレター」の購読を希望される方は、上記のバーコードを携帯電話で読み取るか、
<http://mini.mag2.com/>
または「千代松大耕ホームページ」から登録してください。

千代松大耕ブログ「Izumisano未来日誌」を開設しています

<http://plaza.rakuten.co.jp/chiyogiin/>

「かけはし」の開催

市政と市民の「かけはし」となるべく、毎月一度、市政勉強会「かけはし」を開催しています。開催回数は70回を超えました。基本的に第4木曜日の午後7時30分から午後8時30分まで泉の森ホール2F小会議室で開催しております。前半は私がその時々テーマをお話します。後半は参加者の方々との意見交換やご質問にお答えします。どなた様のご参加もOKです。興味のある方は是非ともご参加ください。

「議会を傍聴しませんか？」

議員の主な仕事は「市政に市民の声を届ける」「市政のチェック」「市政への政策提言」の三つです。これらの仕事を果たすために、定例議会におきまして毎回、一般質問をしています。本会議場や委員会における質問は、議員の務めであるとともに、権利でもあります。議場は市役所5階にあります。どなた様も気軽に傍聴できますので興味のある方は是非ともお越しください。

(問合せ先) 泉佐野市議会事務局 072-463-3723

千代松大耕のプロフィール

1973.10.3	泉佐野市松原生まれ
1986.3	泉佐野市立第一小学校 卒業
1989.3	泉佐野市立佐野中学校 卒業
1992.3	同志社香里高等学校 卒業
1996.3	同志社大学経済学部 卒業
1998.7	米国Lincoln University 大学院 修了
2003.3	大阪府立大学大学院 修了
2005.3	和歌山大学大学院 修了
1999.4	株式会社 堀場製作所 入社
2000.2	泉佐野市議会議員初当選
2002.5	泉佐野市議会議員2期目当選
2006.5	泉佐野市議会議員3期目当選
2010.5	泉佐野市議会議員4期目当選

(議会)

2004.5	泉佐野市議会 第61代副議長
2006.5	泉佐野市監査委員(議会選出)
2008.5	泉佐野市議会 第65代議長

その他、厚生文教委員長、予算特別委員長、決算特別委員長、市町村合併検討委員長、行財政委員長などを歴任

(現在)

(社)泉佐野青年会議所 特別顧問
 泉佐野市バレーボール連盟 会長
 泉佐野市少年軟式野球協会 副会長
 泉佐野市ソフトボール連盟 顧問
 泉佐野市柔道連盟 理事
 泉佐野市青少年指導員
 泉佐野市交通指導員
 第一小学校協議会 委員
 泉佐野市私立幼稚園連合会 顧問
 泉佐野青空市場活魚協同組合 顧問
 (社)全国自衛隊父兄会泉南支部 顧問
 同志社大学体育会アメフト部OB会 常任理事
 同志社大学校友会泉州クラブ副代表
 佐野中柔道部OB会 相談役
 日本教育再生機構大阪 泉佐野支部長
 看護を考える市町村議員の会 副幹事長
 自由民主党 泉佐野支部 政務調査会長
 自由民主党 大阪第19選挙区支部 青年部長
 自由民主党 大阪府連青年局 次長

連絡先 泉佐野市松原2-5-31

TEL.458-1708/FAX.469-0311

ホームページ: <http://www3.ocn.ne.jp/~chiyo51/>

メール: chiyoma51@hotmail.com

発行部数累計: 684,500部

*「まちスケ」のバックナンバーが必要な方は連絡ください。

10年間で400億円

泉佐野市は、平成12年2月の市長選挙で、市長が交代し、現在の新田谷市政がスタートいたしました。私は、市長選挙と同時に選ばれた市議会議員の補欠選挙で初当選をさせていただき、以来10年以上、市議会議員を務めています。新田谷市政がスタートした時に、危機的な財政が発覚し、このままでは、地方自治体の倒産にあたる財政再建準備団体に転落してしまうといった状況でした。泉佐野市は行財政改革推進計画などにより、早急な財政の建て直しを図りました。市民の方々にも様々な面で、多大なるご協力、ご負担をお願いし、健全化を進めさせていただきました。おかげさまで、平成12年から平成22年までの10年間で約400億円の財政収支の改善を達成することができました。

3年間で230億円

国の三位一体改革や固定資産税の評価換えが重なった平成16年4月に、泉佐野市は財政非常事態宣言を出し、それまでであった計画をさらに厳しいものへと修正をいたしました。泉佐野市にとっては倒産寸前の二番危機的な時期でありました。公共施設の週2日閉館や「ミニ」タイプの縮小など市民サービスを大幅にカットしました。この平成16年から平成18年までの3年間で、約230億円の改善ができました。しかしこの間に北海道の夕張市が倒産してしまつたという、夕張ショックが起ころ、さらなる財政の健全化を国から強いられているのが現在の状況であります。

19年間で536億円

これから泉佐野市をどのようにして建て直していくのか、どのようにして早期健全化

団体から脱却していくのか、といったところで泉佐野市は今年の3月に19年間をかけて、約536億円の財政収支の改善をおこない、泉佐野市の財政を建て直していくといった「財政健全化計画」を策定し、国に提出をいたしました。この「財政健全化計画」は国の法律によつて策定を義務付けられて、提出をしなければならなかったものであります。またこの計画を提出することを条件として、泉佐野市は第三セクター等改革推進債という長期の借入ができ、塩漬への土地を抱え、処理に困つていた「宅地造成事業会計」を廃止することができました。

私はこの計画に賛成をいたしました。私は泉佐野市を建て直していく上で、過度な市民負担をこれ以上求めてはならない、極力、市民負担を抑えた中で泉佐野市を早期健全化団体から脱却させるべきと考えています。前述しましたが、平成12年から平成22年までの10年間で泉佐野市は、財政の健全化を図る上で、様々な面で市民の方々にご協力、ご負担をいただきました。しかし一方で市民生活を考えたときにはどうでしょうか？バブル経済崩壊後の長引く景気低迷、また「昨年には、100年に一度と言われた「世界大恐慌」が起ころりました。これにより日本の多くの企業は疲弊し、雇用などは不安定の状態が続いています。この状況の中で、泉佐野市が国から財政の健全化を強いられるからといえ、市民生活に追い討ちをかけるようなことがあってはならないというのが私の考えであります。今回の19年間という財政健全化計画は、極力、市民負担を抑えた緩やかな計画として策定されています。「10年間で400億円」とりわけH16～H18までの3年間で230億円」と「19年間で536億円」というこの財政収支の改善額を比較していただければ、そのことがご理解していただけるものと存じます。

小学校統廃合問題

しかしながら、財政健全化計画の総論としては賛同できたとしても、いざ健全化項目の各論となつてくれば、話は違つてきます。9月議会では、教育委員会が小学校の「適正規模」と統廃合」を諮問するための審議会をつくる「教育問題審議会設置」の議案と補正予算が上程されました。「教育問題審議会」は教育における様々な問題に対して審議していく機関という名目で設置されますが、今のところ諮問される予定の案件は「小学校の適正規模と統廃合」のみが予定されているだけです。「統廃合ありき」のために設置されたといつても過言ではありません。私は市内における小学校は、地域におけるシンボリックな存在であり、これからの泉佐野市の「ひとづくり」の拠点となるものであると考えています。それぞれの小学校区で地区福祉委員会が立ち上がり、(長南校区だけは長瀬と南中に分かれています)(高齢者から子どもたちまで世代を超えての交流が深まっています。そのような中で財政上の観点から、簡単に小学校の統廃合が議論されるのはいかなものかと思えます。私は小学校の統廃合に反対です。

審議会には、小学校の統廃合に関して、対象となつてくる1学年1クラスの小規模校である第三小学校と佐野台小学校の関係者が委員として参加することになっています。関係者の意見を十二分に聞き入れた上で、審議会としての答申を出すように進めていかなければなりません。決して「統廃合ありき」の審議会であつてはならないということであります。



「おまじひ」は「おまじひ」ならぬ



他の「まち」より税金が多い泉佐野市がなぜ苦しいのか？それは、バブル経済が崩壊しているにもかかわらず「関空が来たら何とかなる。」「まだまだ泉佐野市は大丈夫だ。」「という幻想にとらわれて、様々なハード面の事業をおこなつたからであり、そのツケが重くのしかかっているからであります。泉の森ホールの整備に293億円、市立病院の整備に271億円の巨額の投資をおこないました。これからの泉佐野市の「まちづくり」を考えると上では言つてもなく「ハコモノ」などハード面の事業に投資をしていく時代ではありません。整備されたモノをどのように使ひこ

なしていくかといったソフト面の事業に、重点的に投資をしていかなければなりません。ソフト面の「ひとづくり」には、ハコモノに投資をしてきたような巨額のお金は必要ありません。行政からの「ひとづくり」への「積極的な想い」と「汗をかく努力」があれば少額のお金でも、何乗もの効果を生み出していきます。そしてこの泉佐野市で、「泉佐野の高齢者が全ての市民から尊敬される」「泉佐野の子どもたちが全ての市民からかわいがられる」「ふるさと泉佐野が全ての市民から愛される」「そんな、このまちにも負けな」「ひとづくり」を実現させたいと考えています。